PICK UP

創業72年の建材会社がグランピング施設開業へ踏み切った理由

2022年8月にオープンしたmökki（モッキ）STARDUST GLAMPING achi village

忍者カフェ（岐阜県・高山市）は子連れのファミリーに人気。今後はインバウンド客にも期待

昭和26年に石油ストーブを販売する会社として設立。その後ドアサッシなど建材の販売を主軸とし成長してきた

木のぬくもりあふれ、高級感のある内装が人気

構想時の図面（左）と実際の航空写真（右）。敷地は森と川に挟まれ一つの村のようで、夜は輝く星空を堪能できる

これまでの経験と分析から徹底的に「世界観」にこだわった

建材会社が運営する星空グランピング施設「mökki」

２０２２年８月、日本一星空が綺麗な場所として知られる長野県阿智村に、新しいグランピング施設「mökki（モッキ）―STARDUST GLAMPING―」がオープンした。mökkiはオープンしてまだ間もないものの、すでに多くの利用客で賑わっており、格別な自然美を楽しめるラグジュアリーなグランピング施設として注目を集めている。運営しているのは建材の販売・施工を手掛ける株式会社丸泰（岐阜県岐阜市）。同社はデザイン、コンセプトから、外壁、建具、サイン工事も自社で行うなど、本業の知識と技術をフル活用してmökkiをつくりあげた。

10年後を見据え、観光事業のポテンシャルに着目

建材会社がなぜグランピング施設の運営を手掛けるようになったのだろうか。それは株式会社丸泰の代表・伊藤寛章氏が今後の中小企業は「高齢者向け事業」「ＩＴ関連事業」「観光事業」が勝機となり得ると考え、そのなかでも観光事業のポテンシャルに着目したからだ。これからの時代は、体験や経験が大きな価値になる――と観光事業への参入を決意し、２０２０年３月に岐阜県高山市にて体験型の忍者カフェをオープンさせたのがそもそもの始まりである。

「忍者カフェ」の運営で体験・経験の価値を確信

忍者カフェは忍者の疑似体験ができる施設で、忍者衣装のレンタルや手裏剣などの修行体験、ユニークな忍者飯を楽しめる。インバウンド客をターゲットにオープンしたが、オープン直後に緊急事態宣言が発令され、外国人観光客がゼロに。国内ファミリー層へのターゲットチェンジを余儀なくされるなど、滑り出しは順調ではなかった。

しかし、営業を続けていると一人あたり1時間5千円という価格設定にもかかわらず、多くの家族連れが来店。現地でしか得られない体験や経験に高い価値があることを改めて実感したのである。同社はこの忍者カフェの運営を通じて、より特別な体験・経験を提供したいという考えに至り、宿泊業への挑戦を決意したという。

日本一の星空がつくりだす世界観と特別な価値

伊藤氏は、忍者カフェの運営で得たマーケティング知識をもとに、特別な体験・経験を提供できる宿泊施設として「グランピング」に着目。市場調査の段階で200以上のキャンプ場をまわった。その際に、流行る施設とそうでない施設の違いを感じたという。伊藤氏は「どんなに予算をかけた施設でも、敷地が大通りに面していたり、商業施設が近隣にあったりするだけで人工的な音や光がコンセプトを台無しにしている例があった」と振り返った。徹底的に「世界観」を創りあげるからこそ、そこでの体験が特別なものになると確信した伊藤氏は、世界観を創るためには明確なコンセプトが必要だと考え、「日本一の星空グランピング」という唯一無二のコンセプトが確立できる長野県阿智村を開業の地に選んだのである。

価値観の変化とともに発展していく観光ビジネス

人々の価値観は時代とともに変化しており、近年は何かを所有することより、体験・経験を重視する人が増えている。これからの時代、体験や経験はより価値あるものになっていくだろう。そして忍者カフェやmökkiが証明したように、特別な体験・経験は世界観を凝縮した密度の高い空間づくりによって生み出すことができるのである。そのことからも観光業はまだまだ伸びしろが大きいように思う。株式会社丸泰は、体験や経験を価値に変えるビジネスでさらなる発展を目指している。同社がこれからどのような価値を創造していくか非常に楽しみである。

株式会社 丸泰

■所在地（本社）：岐阜県岐阜市領下6丁目46番地
■設　立：1951年（昭和26年）1月
■代表取締役社長：伊藤 寛章

忍者カフェ　mökki